

平成29年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
21110	心理学 Psychology	高沢 佳司	基礎	2	選択	2年 前期
科目の概要						
<p>刺激と反応および認知の媒介、心の働き(知覚、学習、記憶、言語、感情、等)、臨床・発達・社会・対人関係との関連から、これまで心理学が明らかにしてきたことを学ぶ。それに際して、心理学実験を通じて心理学的現象の客観的な観察や、行動の背景を探索することを学ぶ。グループ討議、および調べ学習、その他アクティブラーニングの方法論を用いて、知識・技術の獲得・活用だけでなく、問題解決能力(pisa 型学力、社会人基礎力)も身に付ける。</p>						
学修内容			到達目標			
① 心理学に関する基礎知識を学ぶ。			① 刺激と反応および認知の媒介、心の働き、臨床・発達・社会・対人関係に関する基礎知識を獲得する。			
② 心理学実験を通じて現象の客観的な観察、行動の背景の探索を学ぶ。			② 心理学実験演習、および実験結果の考察を行い、心理学的知見を体験的に理解する。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例				
前に踏み出す力	主体性	調べ学習等の自発的な学習を行うことができる				
	働きかけ力					
	実行力	心理学実験演習、グループ討議等の困難な課題にも粘り強く取り組むことができる				
考え抜く力	課題発見力	心理学実験演習で行動の背景を読み取り、刺激と反応を媒介する要因に気づいたり、測定の際の誤差要因に気づいたりすることができる				
	計画力					
	創造力	心理学的知見を土台とした自らの新しい発想を、日常生活場面に応用し問題解決の道筋を考えることができる				
チームで働く力	発信力	グループ討議の結果をクラス全体に分かりやすく発表することができる。また、相互に教え合うアクティブラーニング形式の学習方法を実行することができる				
	傾聴力	発表者の意見を自分の立場に置き換えて、発表者の意図を汲み取りながら聴くことができる				
	柔軟性	グループ討議の際、相手の意見も取り入れながら多角的に物事を見ることができる				
	状況把握力					
	規律性	他の受講者に迷惑がかからないよう私語はしない。授業中に携帯電話を不必要に操作しない。居眠りをしない				
	ストレスコントロール力					
テキスト及び参考文献						
※テキストはなし。プリントを適宜配布する。						
他科目との関連、資格との関連						
他科目との関連: 人間関係論						
学修上の助言			受講生とのルール			
心理学実験演習やグループ討議を重ねることで、汎用的思考力である高次解釈(なぜ)と低次解釈(どのように)を自在に使えるようにすること。この別々の解釈水準の思考力を持つことで専門的科目の習得が容易になる。注:高次解釈、低次解釈という用語の意味は、難易度や優先順位とは無関係である。前者は物事の中心的意味(理由、目標)に関する思考であり、後者は副次的意味(手段、二次的目標)に関する思考である。			実験、調べ学習、発表、グループ討議、相互に教え合う等の活動に代表される、アクティブラーニング形式での授業に意欲を持って参加すること。ほぼ毎回、課題プリントが課されるため、必ず提出すること。			

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標		各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
筆記試験				
小テスト				
レポート	30	①	✓	ポイント 1. 発達に関する基礎知識を獲得しているか。 2. 自身の見解を論理的な文章で論じているか。 ※30 点満点の素点を評価点とする。
		②	✓	
成果発表 (口頭・実技)				
作品				
社会人基礎力 (学修態度)	10	①	✓	(主体性) ・調べ学習等の自発的な学習を行うことができる (実行力) ・心理学実験演習、グループ討議等の困難な課題にも粘り強く取り組むことができる (課題発見力) ・心理学実験演習で行動の背景を読み取り、刺激と反応を媒介する要因に気づいたり、測定の際の誤差要因に気づいたりすることができる (創造力) ・心理学的知見を土台とした自らの新しい発想を、日常生活場面に応用し問題解決の道筋を考えることができる (発信力) ・グループ討議の結果をクラス全体に分かりやすく発表することができる。また、相互に教え合うアクティブラーニング形式の学習方法を実行することができる (傾聴力) ・発言者の意見を自分の立場に置き換えて意図を汲み取りながら聴くことができる (柔軟性) ・グループ討議の際、手の意見も取り入れながら多角的に物事を見ることができる (規律性) ・他の受講者に迷惑がかからないよう私語はしない。授業中に携帯電話を不必要に操作しない。居眠りをしない ※10 点満点の素点を評価点とする。
		②	✓	
その他	60	①	✓	・調べ学習や実験結果の要約をプリントで提出することが求められる。全課題数における提出回数の割合で評価する。一の位は四捨五入する。 例) 13 回のプリント配布のうち、10 回提出・・・77%のため、46 点。
		②	✓	
総合評価 割合	100			

【到達目標の基準】

到達レベル A(優)の基準	到達レベル B(良)の基準
筆記試験・社会人基礎力(学修態度)・その他(課題)の3つの評価方法において満遍なく十分な力を発揮できれば A。 3つの評価方法においてほぼ、あるいは完璧に力を発揮できれば K。	筆記試験・社会人基礎力(学修態度)・その他(課題)の3つの評価方法において十分ではないが力を発揮、もしくは2つの評価方法において十分な力を発揮できれば B。2つの評価方法において十分ではないが力を発揮、もしくは1つの評価方法において十分な力を発揮できれば C。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	オリエンテーション(心理学とは、心理学実験演習とは)を行う。	講義 質疑応答	心理学がどのような科目であるかを知ることができる。心理学実験演習の概要を理解できる。	復習:配布プリントを見直す。	180	主体性 実行力 規律性
2週 /	刺激と反応および認知の媒介を学ぶ。 (行動の原因としての刺激、結果としての行動、媒介要因・背景要因としての認知)	講義 調べ学習 グループ討議	行動の原因としての刺激、結果としての行動、媒介要因・背景要因としての認知を理解できる。また、ABCモデルや素因ストレスモデル等、心理学における主要な因果関係モデルを理解できる。	復習:配布プリントを見直す。	180	主体性 実行力 規律性
3週 /	パーソナルスペースとは何かを学ぶ。 心理学実験演習を行う。 (1) パーソナルスペース実験	講義 心理学実験演習 グループ討議	パーソナルスペースに関する基礎知識を獲得できる。パーソナルスペースの実験演習で行動の背景を読み取り、刺激と反応を媒介する要因に気づいたり、測定の際の誤差要因に気づいたりすることができる。	復習:配布プリントを見直す。	180	実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 柔軟性
4週 /	感情心理学を学ぶ。 心理学実験演習を行う。 (2) 感情価と抽象度に関する実験	講義 心理学実験演習 グループ討議	感情の基礎知識を獲得できる。感情価と抽象的に関する実験を通して、刺激と反応を媒介する要因に気づくことができる。	復習:配布プリントを見直す。	180	実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 柔軟性
5週 /	知覚・記憶を学ぶ。 (知覚の仕組み、記憶の仕組み) 心理学実験演習を行う。 (3) 記憶力テスト	講義 心理学実験演習 グループ討議	知覚と記憶に関する基礎知識を獲得できる。記憶力テストの体験を通して記憶とは何か、効果的な記憶方略(視覚的表象方略 vs. 統制方略)とは何かを理解できる。	復習:配布プリントを見直す。	180	実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 柔軟性
6週 /	学習・動機づけを学ぶ。 (学習の仕組み、動機づけを高めるには) 心理学実験演習を行う。 (4) 自己制御と動機づけ実験	講義 心理学実験演習 グループ討議	学習と動機づけに関する基礎知識を獲得できる。自己制御と動機づけの実験演習を通して自己制御とは何か、効果的な自己制御方略(目標活性化方略 vs. 統制方略)とは何かを理解できる。	復習:配布プリントを見直す。	180	実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 柔軟性
7週 /	言語・発達を学ぶ。 (言葉の発達、乳幼児期から老人期までの発達)	講義 調べ学習 グループ討議	言語・発達の基礎知識を獲得できる。玩具の占有、ギャングエイジ、第二次反抗期等を話題としながら、乳幼児期から老人期までの発達段階を見通すことができる。	予習:アイデンティティをテーマとした楽曲の歌詞を検索する。 復習:配布プリントを見直す。	15 165	主体性 実行力 規律性
8週 /	臨床心理学を学ぶ。 (精神的健康、精神病、ストレス、予防) 心理学実験演習を行う。 (5) 反応スタイル実験	講義 心理学実験演習 グループ討議	臨床心理学の基礎知識を獲得できる。反応スタイルの実験演習を通してストレス対処方略(気晴らし方略、俯瞰方略、非持続性焦点方略)を体験的に理解できる。	復習:配布プリントを見直す。	180	主体性 実行力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9週 /	動作が認知に与える影響を学ぶ。 (感情、印象への影響) 心理学実験演習を行う。 (6) うなずき実験	講義 心理学実験演習 グループ討議	動作と認知に関する基礎知識を獲得できる。うなずきの実験演習を通して動作や姿勢が感情や印象形成へと与える影響について理解できる。	復習:配布プリントを見直す。	180	実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 柔軟性
10週 /	バイアス、偏見、ステレオタイプの思考を乗り越えるには、について学ぶ。	講義 調べ学習 グループ討議	バイアス、偏見、ステレオタイプに関する社会心理学的基礎知識を獲得できる。	復習:配布プリントを見直す。	180	主体性 実行力 規律性
11週 /	質問紙調査法とその実施方法について学ぶ。 (1) 準備、実施	講義 調べ学習 グループ討議 調査体験	質問紙調査法に関する基礎知識を獲得できる。また、自らが調査したい内容を精査し、アンケート調査を自作、実施できる。	復習:配布プリントを見直す。 アンケート調査を自作し実施する。	30 150	主体性 実行力 規律性
12週 /	質問紙調査法とその実施方法について学ぶ。 (2) 発表、共有	講義 発表 グループ討議 調査報告	実施した質問紙調査の内容を要約し、結果を発表することができる。また、他者の発表を聴いて自らの日常生活に応用するためのヒントを獲得できる。	予習:アンケート調査を自作し実施する。	180	実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 柔軟性
13週 /	オリジナルの心理学実験を組む。 (1) 準備、実施	講義 調べ学習 グループ討議 調査体験	これまで体験してきた心理学実験演習を土台とし、自らの関心のある心理学的テーマを知るために、実験を考案、実施できる。	復習:配布プリントを見直す。 心理学実験を実施する。	30 150	主体性 実行力 課題発見力 創造力 柔軟性
14週 /	オリジナルの心理学実験を組む。 (2) 発表、共有	講義 発表 グループ討議 調査報告	実施した実験の内容を要約し、結果を発表することができる。また、他者の発表を聴いて自らの日常生活に応用するためのヒントを獲得できる。	予習:心理学実験を実施する。	180	実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性
15週 /	全体の振り返りとまとめを行う	調べ学習 質疑応答	心理学の基礎知識と、具体的な日常生活の問題解決について、自らまとめ理解できる。	予習復習:配布プリントを見直す。	180	主体性 実行力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力